

平成23年度決算報告

『町の家計簿』チェック!!

『決算』は、1年間に税金などの収入がいくら入り、それがどのように使われたかをまとめた『町の家計簿』です。

この『町の家計簿』について、平成23年度に町が使ったお金(歳出)と皆さんが納められた税金や国・県からの補助金、交付金など(歳入)から見える、町財政の現状及び課題、運営の評価を見てみることにしましょう。

01 一般会計の決算額

前年度に比べて約1億5,912万円の増額

平成23年度決算が、9月定例議会で認定されました。歳出総額は、前年度に比べて1億5,912万円の増額となり、その主な理由は、桂川駅の利便性を高めるための駅前広場の改良工事、桂川中学校のグラウンド拡張工事の支出などが挙げられます。今後の財政運営については、無駄な歳出については徹底的に省く行財政改革を行いつつ、より財政の安定化を推進していく必要があります。

平成23年度 一般会計の決算額 (万円未満は四捨五入)

歳入 54億3,934万円

町民1人当たり38万4,107円
(前年度: 37万2,017円、1万2,090円増)

歳出 52億4,599万円

町民1人当たり37万453円
(前年度: 35万7,425円、1万3,028円増)

差引残額 1億9,335万円

※平成24年3月31日現在の人口1万4,161人で算定

02 一般会計歳入

自主財源は1/3、依存財源が2/3

平成23年度の一般会計の歳入は54億3,934万円でした。その内訳は、国や県等に頼った依存財源が約67.2%、町税などの自主財源が約32.8%となっています。前年度と比較すると、自主財源が1億7,237万円(約2.4%)増えています。しかし、自主財源には全体の約3.8%にあたる前年度からの繰越金(2億768万円)等が含まれているので、実際の町税などの収入は、約29.0%という状況です。依存財源の中で最も多い割合を占めるのが地方交付税で、20億8,772万円、歳入全体の約38.4%を占めています。

